

令和7年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第一小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・単元内自由進度学習を通して、既習事項と日常生活との関連に気付き、課題に粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる力を高まってきている。
- ・単元内自由進度学習によって、実生活と結び付きが強い課題に取り組んだり、一人一人のペースで学習したりすることができている。

(2) 課題

【単元内自由進度学習の取組】

- ・体験活動の工夫（学習環境の構築）
自由進度学習では学び方の支援も必要なため、学習内容の指導・支援に十分な時間を割くことができなかつた。図形の作図に関しては学習環境をはじめとした工夫をしていく必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

今年度の正答率が目標値に対し、+5ポイント以上の場合△、
+5ポイント未満-5ポイント以上の場合≒、-5ポイント未満の場合▼

| | 令和7年度結果 | 令和6年度結果 | 令和5年度結果 |
|------|--------------------------------------|---|---|
| 第4学年 | ≒数と計算 △図形 ≒変化と関係・測定 △データの活用 | / | / |
| 第5学年 | △数と計算 ▼図形 △変化と関係・測定 △データの活用 | ≒数と計算 ≒図形 ≒変化と関係・測定 △データの活用 (第4学年時) | / |
| 第6学年 | ≒数と計算 ≒図形 ≒変化と関係・測定 ▼データの活用 | ≒数と計算 △図形 △変化と関係・測定 ≒データの活用 (第5学年時) | △数と計算 △図形 △変化と関係・測定 △データの活用 (第4学年時) |

(2) 分析（観点別）

① 中学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|--|--|
| 繰り上がりが3回あるたし算、2桁×1桁のかけ算、余りのあるわり算の正答率が目標値よりも下回っている | どの領域も概ね目標値と同じかそれ以上であったが、「わり算」の記述式のみ目標値を下回っていた。 | 選択問題では、小数の相対的な大きさ、分数が目標値を下回っていたが、それ以外の問題は目標値と同じか上回 |

| | | |
|----|--|---------------------|
| た。 | | っていた。作図は目標値を上回っていた。 |
|----|--|---------------------|

② 高学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|--|---|
| 5年生は「角の大きさ」の分度器の目盛りを読み取る問題の正答率が目標値よりも大きく下回っていた。6年生は小数の計算や円の問題の正答率が下回っており、特に割合は目標値を大きく下回っていた。 | 5年生はどの領域も目標値と同じかそれ以上だった。6年生は「データの活用（円グラフや帯グラフ、平均）の問題が全て目標値を下回っていた。 | 5年生は作図が目標値より大きく下回っていた。選択の問題は目標値とほぼ同じだった。6年生は選択の問題はほぼ目標値と同じかそれ以上だった。しかし円グラフや平均を求める問題は正答率が下回っていた。 |

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|---------------------------------------|---|
| 計算ブロックを操作しながら計算の仕方を説明したり、計算カードやタブレットドリルなどで繰り返し練習したりできる場を多く設定し、知識・技能の定着を図る。 | ノートに図を書いたり、友達に自分の考えを伝えたりする活動を多く取り入れる。 | 長さや水のかさなど、量感を育むために生活体験に結び付けた活動を多く取り入れる。 自由進度学習では自分に合った課題を選択できるようにすることで最後まで粘り強く取り組む姿勢を育む。 |

(2) 中学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---------------------------------------|---|
| 授業の初めの時間を使い100ます計算などを行って、九九の定着を図る。様々な筆算を使った問題に取り組む機会を増やすことで、正確な計算を行う力を育む。 | 式から問題を作る課題を多く取り入れ、式と図と問題を結びつける思考力を養う。 | 低学年の内容の復習やスモールステップを取り入れた活動を行うことで、算数に苦手意識をもつ児童に自信をつけさせる。 |

(3) 高学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|---|---|
| 朝学習や家庭学習においてタブレットを活用しより多くの問題に取り組ませる。解き直しを徹底させることで知識の定着を図る。 | 何を問われているのか、図や数直線を用いて考え問題を解決することができるようにする。 | 単元内自由進度学習を通して、課題に粘り強く取り組む姿勢を育み、日常生活との関連に気付き自己の学習活動を振り返って今後の生活や学習につなげる力を高める。 |

